

シャント疾患(dAVF, AVM)の診断における silent MRA, TOF MRA, DSA, CT-DSA の診断能の比較に関する研究

ご協力をお願い

研究責任者	所属 <u>脳神経外科学</u> 職名 <u>講師</u> 氏名 <u>秋山武紀</u> 連絡先電話番号 <u>03-5363-3808</u>
実務責任者	所属 <u>脳神経外科学</u> 職名 <u>助教</u> 氏名 <u>荒井信彦</u> 連絡先電話番号 <u>03-5363-3808</u>

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの診療情報を用いた下記の医学系研究を、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2015 年 8 月 1 日より 2020 年 7 月 31 日までの間に、脳神経外科にて頭蓋内シャント疾患の診断、治療のため入院、通院し、MRI、CT-DSA、血管造影検査などの画像検査を受けた方

2 研究課題名

承認番号 20180198

研究課題名 シャント疾患(dAVF, AVM)の診断における silent MRA, TOF MRA, DSA, CT-DSA の診断能の比較に関する研究

3 研究実施機関

慶應義塾大学病院脳神経外科、
研究責任者 慶應義塾大学 講師 秋山武紀

4 本研究の意義、目的、方法

CT, MRI などの非侵襲的画像診断の進歩により、カテーテルによる脳血管撮影 (以下 DSA)

の施行件数は減少してきてはいますが、DSA はいまだに血管病変に対してもっとも診断能力が高い検査法です。中でも血行動態の評価が診療上重要となる頭蓋内動静脈シャント性疾患の診断や治療適応の判断においては、高い空間分解能および時間分解能を有する DSA は必須の検査とされてきました。また CT-DSA に関してもこれまでの研究から一定の感度で、頭蓋内疾患に対して有用とされてきていますが、それでも造影剤や被爆など侵襲のある検査といえます。しかし近年開発された silent MRA という脳血管の撮像方法は頭蓋全体を検出範囲に収めうる上、ヨード造影剤注入が必要なく、これまでの MRA 撮像方式である TOF では検出不十分であった、もしくは検出することが出来なかった小シャント疾患やシャントポイント並びに流出静脈の描出などに対して比較的高い分解能で評価可能であると思われます。

DSA、CT-DSA は診断能力に優れるが、侵襲性、重篤な合併症リスクが無視できないなどの欠点があり、silent MRA で十分な診断ができるならば代用することが望まれます。

5 協力をお願いする内容

該当する患者様の当院において撮影いたしました MRI、CT、血管造影検査などの画像検査および診療録から臨床情報のご提供をいただきます。

6 本研究の実施期間

研究機関の長からの実施許可が下りた日 ~ 2020 年 7 月 31 日

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名および患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第 3 者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と、匿名化した診療情報を結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また研究計画書に記載された所定の時点で完全に抹消し、破棄します。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

160-8582 東京都新宿区信濃町 35 慶應義塾大学医学部 脳神経外科

平日 9 時 - 16 時 30 分まで対応可能

慶應義塾大学医学部脳神経外科 秋山武紀 03-5363-3808

以上